

これからの海事人材（技術者）の育成について

海事問題調査委員会 委員長 増田 恵（東船大 N16）

海洋会「海事問題調査委員会」は、平成 30 年度の活動として、新技術の開発が進む近未来の世界においては、「現在の海事世界で働く海技者」から「新技術を身に着けた未来の海技人材」に繋げていくために必要とされる人材育成をテーマに考えてみることにしました。

昨年の海事問題調査委員会では、「海事世界における新技術の動向について」と題して、技術開発の動向を報告しました。

今年度は、「技術」から「技術者（海技者）」に焦点を移し、以下のサブ・テーマの下に委員が分担して取り纏めました。

- I. 近未来の海洋エキスパートと商船教育への期待
- II. 大学における商船教育の課題
- III. 複雑化する教育訓練現場
- IV. 海事行政を担う海技者
- V. 外航日本人船員育成における制度上の課題
- VI. 船舶機関士に求められる課題と未来
- VII. 船舶におけるデジタル化と海技者に求められる素養について

平成 30 年度の海事問題調査委員会報告書は、本誌 108 頁～136 頁に掲載していますのでご一読下さい。

第Ⅱ章より

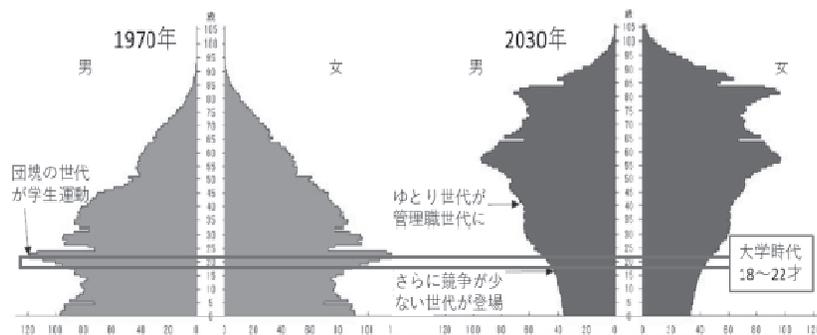


図 1. 1970 年（左）と 2030 年予想（右）の人口ピラミッド（人口問題研究所（<http://www.ipss.go.jp/>）より）

第Ⅴ章より （高校生の職業に関する意識）

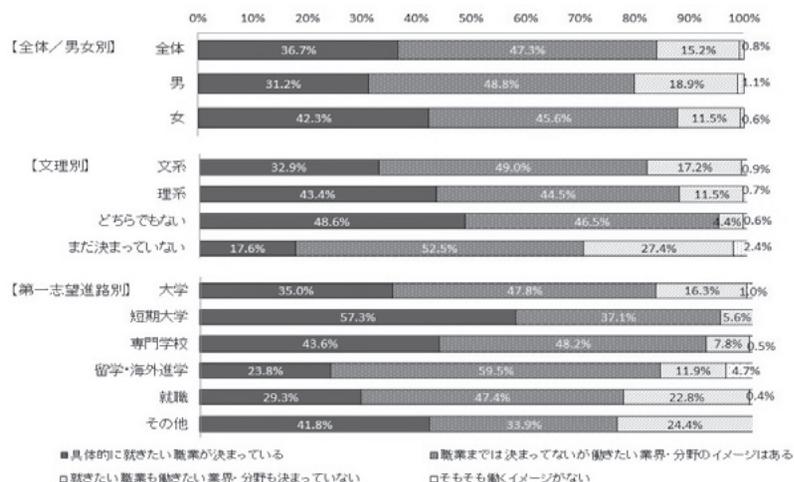


図 2. 将来、就きたい職業は決まっていますか？

（出典：https://www.mynavi.jp/news/2015/08/post_9516.html）